

留学で初めて気づいた 自分のデザインのクセ

一ヶ月授業を受け、課題を制作してみて、自分のデザインのクセを実感しています。(院生になってやっと?って今になっては思いますが...) 私が留学先で専攻しているコースは、千葉大学のコミュニケーションデザイン研究室の内容に近く、与えられたテーマに沿って、ポスターや動画、パッケージや本を制作します。千葉大での授業では、新規性のある企画や要件に沿ったヴィジュアルの作品を生み出すことが重要視されてきましたが、延世の授業ではヴィジュアルメインなので自分の好きなグラフィック表現を授業で生かすことができ、楽しいと感じます。その一方で一つの作品の制作期間が短いので、企画をじっくり考えている余裕はなく、どんなヴィジュアルを作り込まなければいけません。それを繰り返すうちに、自分のデザインのクセがとて明確に見えてきました。私の考えの自分の企画部分のクセは、「五感を使ったデザイン」がすごく好きということです。画像一は「持続可能な環境へのアクションを促進する」テーマで、画像二は「コロナ禍でも楽しめるディレイキットを制作する」ことがテーマでしたが、どちら



▲画像2 コロナ禍でも毎日を楽しめるキットの制作。(上がパッケージで下がマニュアル)



▲画像1 インスタで自然を感じるのではなく、リアルな自然を感じるために外出を促進する動画を制作しました。

も五感メインの情緒的な企画からヴィジュアルを作り込みました。企画は自分の欲しいものからインスピレーションを受けるのですが、五感を網羅した心理的効果は魅力的に感じがちです。自分のスタイルがあることはいいこともある反面、視野がどんどん狭くなってしまったため、意識的に避ける必要が今はあると思います。留学中たくさん課題が出るため、やってみたいと思います。そんなことが留学一ヶ月目での気づきでした。

建築家 安藤忠雄が設計した美術館へ

同じ地域の原州の美術館に行ってきました。この美術館は日本の有名な建築家 安藤忠雄が設計したことで知られています。この美術館は山の中にあり、敷地と自然を賢沢に活用しています。2000万ドルの本館と敷地を設計した建築家の安藤氏によると、「空に庭園の美術館、他に類を見ない夢のような美術館を作ったかった」とのことですが、まさに展示の数、スケール、美しさどれをとっても「夢のような美術館」だったと感じます。また、アレクサンダーリベルマンの彫刻であるアーチウェイが一番この美術館の中で象徴的な作品でした。(写真左下) 観覧コースは全長約3km、約2時間。観覧動線が特徴的で、ミュージアムの一番奥に位置するジェームズ・タレル展まで行くと、来た道を折り返し、再び入口に戻るようになっていきます。本館ギャラリーからも周辺の自然が目に入るように設計されており、ゆっくりと散歩するような感覚で楽しめます。韓国にはたくさんの現代アート美術館があり、気軽に入场して作品を楽しむことができます。留学中はたくさんのアーツに触れて刺激を受けたいです。



韓国料理とわたし

韓国料理は油っこくて結構辛いのでお腹の弱い私は注意して食べなければいけません。しかし、元々韓国料理が好き&コンビニやスーパーに売っている即席料理がとて韓国料理に偏っているため、韓国料理を毎日食べてしまいます。好きですが、さすがにそろそろ飽きてきました。日本にいるときは、和食が恋しくなることがなかったのですが、今はとても恋しいです。(特に納豆...) そんな私が印象に残った韓国料理の画像をコラージュしてみました。一番美味しかったのは、左上の画像のトッポギです。実は日本のもので違っていて、韓国伝統的なものは醤油味であまり辛くないです。全部辛いと思っていたので驚きました。



連載コラム 今月の推し

今月から連載がはじまりました「今月の推し」コラム。何を隠そう私はケーポップアイドルヲタク歴十七年(推定)の超古参なので、せっかくなのでこの機会に語らせていただきたいと思います。始めました。私の考えるKpopの魅力は、「刺激的でゴッど感じます。Kpopはhiphopのアップテンポな曲調ベースに発展してきたので、デジタル固有のRGBの発色を持つ現代アートやテクノロジーとの親和性が高く、見る人に対して今までに体験したことがない刺激と近未来感を与えます。これが、私がKpopへ感じる魅力であり、また好奇心旺盛な若者の世代に人気な理由の一つであると感じています。私が最近強く感動したMVはRed Velvetの「Feel My Rhythm」や「Dumb Dumb」には、たくさん有名な絵画をオマージュしたシーンがたくさんあり、見れば見るほど凝った世界観に圧倒されます。そこに現代の音楽が重なることで人々の新しいものに対する好奇心を刺激する作品になっていると思います。



